

## 平成30年度 第3回 福祉施策審議会 会議録

1 日時 平成30年10月4日（木）

午後2時00分～4時00分

2 場所 流山市役所第2庁舎3階303会議室

3 出席委員

鎌田副会長 石幡委員 小野寺委員 中委員 大野委員

大津委員 寺田委員 二瓶委員 吉田委員

上平委員 米澤委員 栗飯原委員 小泉委員 菅野委員 牧委員

4 欠席委員

鈴木会長 永田委員 山中委員

5 市出席職員

早川健康福祉部長 小西健康福祉部次長兼障害者支援課長

豊田社会福祉課長 石井高齢者支援課長

長谷川児童発達支援センター所長

寺田介護支援課課長補佐（代理） 大作健康増進課課長補佐（代理）

障害者支援課 矢口課長補佐 岩本課長補佐

時田障害福祉係長 白井障害者給付係長

事務局（社会福祉課健康福祉政策室）

柳社会福祉課健康福祉政策室長 高橋主任主事 齊藤主事

6 傍聴者

5名 ※その他の参加者 手話通訳者2名

7 議題

答申

1. 流山市避難行動要支援者避難支援計画（災害時要援護者避難支援計画）  
の改正について

2. （仮称）流山市手話言語の普及の促進に関する条例の制定について

## 報告事項

(10月10日開催) レッツ エンジョイ 介護予防♪筋力アップ大作戦!!

(10月20日開催) アドバンス・ケア・プランニングのすすめ

～私らしく生きるために～

## 8 議事録

(柳社会福祉課健康福祉政策室長)

本日はお忙しい中、平成30年度第3回流山市福祉施策審議会にご出席いただきましてありがとうございます。それでは、会議を始めさせていただきます。時間は最長で2時間(16時まで)を予定していますので、よろしくお願いいたします。

なお、議事の進行につきましては、流山市附属機関に関する条例第5条第1項の規定に基づき、会長が会議の議長になることになっておりますが、鈴木会長が入院加療中のため本日欠席ですので、会長職務代理者の鎌田委員に議長をお願いします。

(議長：鎌田副会長)

会議に入る前に、委員の皆様には報告いたします。本日の出席委員は15名です。委員の半数以上の出席がありますので、附属機関に関する条例第5条第2項の規定に基づきまして、会議は成立していることをご報告します。

なお、市民参加条例等の規定により、審議会は公開となっております。本日は、5名の方から、本審議会を傍聴したい旨の申し出がありましたので、会議の傍聴についてご了承願います。

(議長：鎌田副会長)

次に事務局から、配布資料について説明をお願いします。

(柳社会福祉課健康福祉政策室長)

その前に、本日の審議会開催にあたり鈴木会長よりメッセージが寄せられています。恐縮ですが代読させていただきます。

<会長あいさつ代読>

それでは、事前に配布しました資料及び本日配布しました資料の確認をさせていただきます。

### ＜資料の確認＞

また、先にお送りさせていただきました、(仮称)流山市手話言語の普及の促進に関する条例の制定について(答申案)につきまして、一部、修正があったことから、あらためて配布させていただきますので、差し替えをお願いします。

不足されている方は、お申し出ください。よろしいでしょうか。

また、議事録作成のため、録音させていただくことを許可願います。

(議長：鎌田副会長)

ありがとうございました。

本日は、議論の後、答申に向けた準備時間として15～20分程休憩の時間を設けたいと思いますので、予めご了承ください。

それでは、議題1の答申案について説明をお願いします。

#### 議題1

(社会福祉課 高橋主任主事)

それでは、「流山市避難行動要支援者避難支援計画(災害時要援護者避難支援計画)の改正について(答申案)」を、説明・読み上げさせていただきます。

### ＜説明終了＞

(議長：鎌田副会長)

答申案に対して、質疑や意見等ありますでしょうか。

(上平委員)

内容はこれで良いと思います。形式ですが、大項目の下に小項目がありますが、○ではなく(1)、(2)という書き方が普通かと思いますが、○にしてある意味は何かありますか？

(社会福祉課 高橋主任主事)

前年の高齢者支援計画の答申書でも同じ形式を使っておりまして、同様に作成したものです。

(上平委員)

大項目で1とあれば、その下の小項目は(1)とするのが良いと思います。

それと、大項目と小項目の関連付けを書かないといけないと思います。1の大項目を「下記事項を十分考慮の上、支え合いの体制を着実に構築してください。」とすれば、大項目と小項目の関連が分かって良いと思います。

（議長：鎌田副会長）

1の大項目に、「下記事項を十分考慮の上」とつければ、小項目との関連が分かって良い、というご意見でしたが、事務局はどうですか。

（柳社会福祉課健康福祉政策室長）

確認します。大項目1の4行目を「下記事項を十分考慮の上」支え合いの体制を着実に構築してください。」とし、小項目については○ではなく（1）、（2）とするということによろしいでしょうか。

（社会福祉課 高橋主任主事）

小項目を（1）にという点はすぐに対応できます。「下記事項を十分考慮の上」という文を入れると、その前文に「流山市地域支え合い活動推進条例の趣旨を尊重し」もありますので、少々長くなります。シンプルな文章の方が良いかどうか、委員の皆様のご意見を伺いたいと思います。

（議長：鎌田副委員長）

事務局から説明がありましたがどうですか。

（社会福祉課 高橋主任主事）

もし異論がなければ上平委員の提案のとおり修正します。

（大野委員）

上平委員の提案のとおり修正した方が良いと思います。

（鎌田委員）

では、上平委員の意見のとおり、大項目1に「下記事項を十分考慮の上」という一文を入れ、小項目については（1）、（2）という表記に修正します。

（社会福祉課 高橋主任主事）

確認に読み上げます。大項目1は、「自然災害が頻発するなか、高齢者・障害のある人・要介護認定を持つ人など、災害時の避難支援に配慮が必要な要支援

者が増加しています。すべての市民が安心安全に暮らし続けられるように、流山市地域支え合い活動推進条例の趣旨を尊重し、下記事項を十分考慮の上支え合いの体制を着実に構築してください。」とします。

（議長：鎌田副会長）

その他にありますか。

（牧委員）

「努めてください」という表現について、「十分ではないから」という理由がありましたが、十分ではないからこそ、「進めてください」という表現にした方がよいのではないのでしょうか。

大項目２に「本計画の円滑な推進に努められるとともに」とありますが、そのあとに「進捗状況の把握・点検・評価を行い」と続くのですから、「努められるとともに」は省いて「本計画を円滑に推進し」とすれば良いと思います。

同じく大項目２の文末の「必要に応じて」とはどういうことでしょうか。「必要に応じて」とすると、やらなくていいと解釈できてしまうのではないのでしょうか。

（議長：鎌田副会長）

「努めてください」という表現について一つ。大項目２は「努められるとともに」を省いてシンプルにした方がよい、という点が一つと、「必要に応じて」がどういう意味かというご意見ですが、事務局いかがでしょうか。

（社会福祉課 高橋主任主事）

「努める」と「取り組むの」違いですが、先ほど説明のとおりですので、他の委員の皆様の意見もお伺いしたいです。

二つ目の「本計画を円滑に推進し」という表現でシンプルにするという点については、異論はありません。

「必要に応じて」というのは、PDCAを行って、計画を見直す必要があれば見直しをしますし、この改正についても法律が変わったことで計画を改正するという意味合いがありますので、そうした場合に見直しを行うということです。

（牧委員）

「必要でないから見直しを行っていない」ということが言えてしまうと思います。もう少し明確に、定める良い表現はないのでしょうか。「別途定められた時

期に」という表現などはどうでしょうか。

（上平委員）

牧さんのご意見も分かりますし、「必要に応じて」は便利な言葉ですが、私は取ってしまえばいいと思います。「把握・点検・評価を行い、見直しを行ってください」とすれば良いと思います。見直しはしなければいけないもので、「必要に応じて」という言葉があるからあいまいになるというのであれば、取ってしまってはどうか。

（議長：鎌田副会長）

事務局はどうでしょうか。

（豊田社会福祉課長）

事務局としては、例えば、国からの指示があった場合・今回の様に法律が変わって改正の必要が生じた場合に、「必要に応じて」という言葉があると見直しの際にスムーズなので、出来ればこのまま残していただきたいと思います。

（議長：鎌田副会長）

事務局から、「必要に応じて」という言葉があれば臨機応変に対応が出来るという説明がありましたので、このまま残すということによろしいでしょうか。

（牧委員）

例えば「必要に応じて(法律が変わった時)」など注釈を入れてはどうですか。

（早川健康福祉部長）

牧委員の仰るとおり、PDCA というものは絶えず行っていきます。把握・点検・評価は常に行いつつ、その中で法律も頻繁に改正されます。特に災害についての法律の改正は、大きな災害も頻発していますので、事務局も注視していきます。把握・点検・評価は常に行いつつ、計画の見直しが生じた際には国の動きによって必要に応じた対応をしていきます。「必要に応じて」という表現があいまいである、ということであれば、「必要に応じた」見直し、という表現にしてはどうでしょうか。

（上平委員）

「必要に応じた」であれば、意味合いも随分変わって良いと思います。

(議長：鎌田副会長)

それでは、「必要に応じた」という表現に変更したいと思います。牧委員もよろしいでしょうか。

(牧委員)

良いと思います。

(議長：鎌田副会長)

質疑を尽くしたとして、この答申書によって、市長へ答申させていただきますので、事務局は準備をお願いします。

続きまして、議題２点目の答申案について説明をお願いします。

## 議題 2

(小西健康福祉部次長兼障害者支援課長)

それでは、「流山市手話言語の普及の促進に関する条例の制定について（答申案）」について会長から答申(案)をいただきましたので代読させていただきます。

<説明終了>

(議長：鎌田副会長)

答申案に対して、質疑や意見等ありますでしょうか。

(上平委員)

大項目３について、「施策の推進について明確にしてください」では分かりにくいと思います。「そのような取組みを行う施策」とすることで、何の施策かははっきりと分かって良いと思いますが、どうでしょうか。

大項目４についても、「普及が進むように」とありますが、何の普及が進むことなのか主語が分からないので、「手話言語の普及が進むように」とした方が主語が入って良いのではないかと思います。

(議長：鎌田副会長)

大項目３について、「そのような取組みを行う施策の推進」にしてはどうか、大項目４については、「手話言語の普及が進むように」にしてはどうか、というご意見が出ましたが、皆さんいかがでしょうか。

（栗飯原委員）

手直しはそれで良いと思います。この答申は短くよくまとまっていると思いますが、実際は、なぜこの条例を作らなくてはならないのかを含めて、「実行」する段階がとても大変だと思います。どのように実行していくのか、学校等でも（授業で）そのような時間を作るなど、条例について認知をして広めていくのは大変だと思うので、その点についても詰めていただきたいと思います。

（議長：鎌田副会長）

その他、または上平委員の意見についてどうでしょうか。事務局はいかがでしょうか。

（小西健康福祉部次長兼障害者支援課長）

この答申案は、鈴木会長と鎌田副会長で作成いただいたものですが、市としては、文言の追加について皆様に異論がなければ上平委員の提案のとおり修正するという事で異論はございません。

（米澤委員）

上平委員のおっしゃる文言を入れたほうが、より分かりやすくなって良いと思います。

（議長：鎌田副会長）

それでは、大項目３は「手話は、言語であると同時にコミュニケーション手段でもあり、共生社会の実現に向けた取り組みが重要と考えることから、そのような取組を行う施策の推進についても明確にしてください。」とし、大項目４は「市民等の範囲や意味をわかりやすく表現し、手話言語の普及が進むように配慮をしてください。」とします。いかがですか。

（各委員）

良いです。

（議長：鎌田副会長）

それでは質疑を尽くしたとして、この答申書によって、市長へ答申させていただきますので、事務局は準備をお願いします。



(議長：鎌田副会長)

次に、その他の報告事項の説明をお願いします。

(石井高齢者支援課長)

それでは、「10月10日開催のレッツ エンジョイ 介護予防♪筋力アップ大作戦！！」について説明させていただきます。

<説明終了>

(議長：鎌田副会長)

事務局からの説明について、質問はありますでしょうか。

(米澤委員)

この体操に参加する場合は、上履きは必要ですか。

(石井高齢者支援課長)

一応スリッパの用意もしておきますが、数に限りがありますので、持参いただければと思います。

(議長：鎌田副会長)

他にございませんか。それでは、議事進行の都合で、5分ほど休憩を入れます。50分から再開します。

(早川健康福祉部長)

市長の公務の都合上、5分休憩を挟んだのち、報告事項の前に、先に答申を行わせていただきます。

<休憩（市長入室）>

(議長：鎌田副会長)

それでは、会議を再開します。ここからは、答申に移りますので、事務局にて進行をお願いします。

(柳社会福祉課健康福祉政策室長)

これより2つの議題について、市長へ答申いただきたいと思います。

<鎌田副会長・市長が所定の位置へ移動>

**答申 1**

(柳社会福祉課健康福祉政策室長)

それでは、流山市避難行動要支援者避難支援計画（災害時要援護者避難支援計画）の改正について、答申をお願い致します。

(鎌田副会長) 答申書読み上げ

**答申 2**

(柳社会福祉課健康福祉政策室長)

続きまして、流山市手話言語の普及の促進に関する条例の制定について、答申をお願い致します。

(鎌田副会長) 答申書読み上げたのち、市長に答申書を手渡す。

**< 答申おわり・写真撮影 >**

(柳社会福祉課健康福祉政策室長)

最後に市長から、一言挨拶させていただきます。

**< 市長挨拶 >**

(柳社会福祉課健康福祉政策室長)

ありがとうございました。市長につきましては、公務の都合上、ここで退席させていただきます。

**< 市長退室 >**

(柳社会福祉課健康福祉政策室長)

それでは、改めて、鎌田副会長より進行をお願いします。

(議長：鎌田副会長)

ここからは、また私から進行させていただきます。2つの諮問につきましてただいま終了しましたので、残りの報告事項について、事務局から説明をお願いします。

(齊藤介護支援課主任保健師)

それでは、「10月20日開催のアドバンス・ケア・プランニングのすすめ～私ら

しく生きるために～」について説明させていただきます。

＜説明終了＞

（議長：鎌田副会長）

事務局からの説明について、質問はありますでしょうか。

（大津委員）

質問というか、「アドバンス・ケア・プランニング」<sup>1</sup>という言葉の中身についてお話します。病院で最期を迎えることが難しくなっていることと、それを望まない人が増えているという実情があり、日本医師会と政府との間で「本人が人生の最期をどう選択するか」について、話が進められていて、そこは一致しています。

今、流山市では「看取り」ということを医師と介護士で勉強しています。日本の医療の歴史の中で、昭和 30～40 年頃までは病院が少なかったため、皆さん家で亡くなっていました。その頃、家で病人に対して行っていたことが「看取り」で、医療でどうすることもできず、ケアするしかない時代の言葉がまた復活してきました。

現在の日本では、進んだ医療を受けることが出来ますし、病院はいつでも入院できますから、最期まで医療を受け続けることも可能ですが、それを求めない方も増えてきています。延命治療で機械につながれて点滴で生きているのは嫌だと感じ、自分の住み慣れた場所で最期を迎えることを希望する方が増えています。国としても、病院で最期まで医療を受け続けると医療費がかかりますから、本人が希望するのであれば、在宅で最期を迎えてほしいと考えています。

こうした今までと異なった新しい時代に、我々医師側も、最期をどう看取ったらいいのか分からない、まだ十分に出来ないという現状があります。皆さんも誰に相談すれば住み慣れた場所で最期を穏やかに過ごせるのかと思っています。流山市と市の医師会ではその準備を進めていますが、まだ実践できる医師は多くはありません。

在宅医療をしている医師は看取りの原型になる事例として、5 年位前から、がん末期の患者を緩和医療・緩和ケアにより、自宅や施設で苦しまずに最期を迎える看取りができることを経験し始めました。こうしたことから、皆さんに

---

<sup>1</sup> アドバンス・ケア・プランニング

本人の意思決定が困難になった場合の治療・療養方法について、患者や家族、医師があらかじめ話し合う過程のこと。

も、自宅で苦しめない最期を迎えられるということが広まってきたのではないかと思います。

これは、医療を提供する者も介護を提供する者も、皆さんと一緒に勉強していかないと成り立たないことなので、皆さんにも考えていただきたいと思います。そして、医師会では、かかりつけ医を必ず持つてほしいと考えています。かかりつけ医が「アドバンス・ケア・プランニング」に関わる医師ですので、自身のかかりつけ医に、自分の意思を相談しておくことが大切です。健康な時から自分が最期をどう迎えたいか、かかりつけ医に伝えておくことで、急変した時にも病院に行かないといった対応もできます。

在宅での看取りを希望する方が救急搬送された際、それまでは救急隊員や病院も対応方法が分からなくて、本人の意思を尊重することが出来ませんでした。しかし、最近のかかりつけ医と連絡を取り、自宅に帰して最期を迎える・かかりつけ医が看取るといったこともできるようになりました。

なかなか「看取り」という考えが広まっていないので、医師会としてはかかりつけ医を持って、「アドバンス・ケア・プランニング」について話をしようをお願いしています。かかりつけ医が「アドバンス・ケア・プランニング」を知らない・詳しくない場合でも、意志があることを伝え続けることで、医師も勉強します。

今施設に入っている方は、最期は病院に行かないと考えている方が多いです。ですので、ご家族にも「アドバンス・ケア・プランニング」について伝え、本人に、施設で穏やかな最期を迎えていただくという経験を私はしてきましたが、経験を積んだ医師は現状では多くありません。医師会ではそうした医師を育てていかなければいけないと考えていますので、これから教育をしていきたいと思います。皆さんが医師に対して求めることによって医師が動いていきます。

「病気を治すために医師になったのであって、最期を看取るために医師になったのではない」という動機との矛盾もあります。しかし、そうせざるを得ない状況に日本社会がなってしまう、「看取り」が求められる中で、それは医師にしかできない役割ですので、医師会でも取り組みをしていきたいと思っています。

（上平委員）

大津委員のお話に対して、お伺いします。私が掛かっている先生に「先生をかかりつけ医にして良いか」と尋ねたら、あまり積極的に肯定してくれませんでした。私に何かあったときに電話等があっても対応できないと考えているのではないかと思うのですが、こういう場合はどうしたら良いのでしょうか。

(大津委員)

医師会では、かかりつけ医というのはその人の生活を見て、最期まで考えてくれる医師であると考えています。その医師の反応は、訪問診療医ではないので、最期まで対応できない、という意味だと思います。流山市は訪問診療医はまだ少なく、訪問診療医でなくても最後の看取りを行う医師も少しずつ増えてきましたが、自分の意思で出来ない・したくないと考えている医師に強制することはできません。

また、病院の医師は勤務医で市内に住んでいないことがあるので難しい場合もあります。ただ、実際に最期を看てくれるかどうかは別にして、「アドバンス・ケア・プランニング」の話はできると思います。ですから、最期に近いところまでは話が出来ると思いますし、どうしてもできない場合は訪問診療医を紹介していただければ、我々がその役割を果たすことが出来ます。

(議長：鎌田副会長)

その他にございますか。よろしければ、これで終了したいと思います。

(柳社会福祉課健康福祉政策室長)

これを持ちまして、2つの諮問事項について、貴重なご意見をいただき答申をいただくことができました。皆さま、大変お忙しいなかありがとうございました。予定では、今年度中に本審議会でご審議などをいただく案件はありますが、福祉に関しては制度の改廃が大変多い分野ですので、ご審議いただきたい案件があった場合にはどうぞよろしくお願いします。

最後に、本日は、会長の代理を務めていただきました、鎌田副会長から一言お願い致します。

(議長：鎌田副会長)

< 鎌田副会長挨拶 >

(柳社会福祉課健康福祉政策室長)

皆様には忌憚のないご審議をいただきましてありがとうございました。

以上を持ちまして、平成30年度第3回流山市福祉施策審議会を終了させていただきます。ありがとうございました。